

令和5年度 第1回 秋田県立農業科学館運営協議会（議事録要旨）

1 日 時 令和5年7月26日（水） 13:30～15:30

2 場 所 秋田県立農業科学館 多目的ホール

3 出席者 秋田県立農業科学館運営協議会委員5名

4 議事概要

(1) 報告（○：協議会委員、■：事務局）

①令和4年度 農業科学館事業実績について

②令和5年度 農業科学館事業について

○セカンドスクールの利用数の昨年度と比べて今年度はどうなっているか。

■6月までの集計だが、各月とも前年度実績を上回っている。保育園等で親一人・子一人としていた人数制限をなくしたことなどにより約2倍の利用者数となっている。また、県外からの利用も増えている。

○干拓博物館と連携するとのことだが、写真を展示する形か。

■干拓博物館で令和4年度に実施された企画展の中で展示された写真を中心に借用し、当館展示通路で展示する。

○他の博物館と連携してお互いにPRしていければ望ましい。

○セカンドスクールの中学校の利用が少ないのは何か理由があるか。

■中学校に関しては学校のカリキュラムの内容と一致しない部分もある。中学生が当館で見学や体験をするといった部分は組みにくいと感じている。

(2) 協議（意見交換）

・博物館法改正に伴う今後の事業について

■博物館法改正に併せ、県の令和5年度事業の説明。近代美術館のメタバース事業などを紹介。

○県内に小さい博物館等が多くあるので、そういった所も一元化してメタバースの中でも一緒に見れるようになればいい。

○以前新聞に掲載された民謡のテープの紛失の話があった。非常にもったいない話である。ぜひとも一元化していただき、後世に繋げてもらいたい。

- 農業科学館で大曲農業高校で採れた卵の販売にあわせて、鶏の品種や成長過程の情報を発信すれば興味をそそられる。鶏はSDGsに貢献している。野菜くずを餌として与えたりなどで循環していく。
- 栽培しているバラの品種が古い。少しずつでも新しくしてほしい。また、ダリアの花壇を拡張するなどし、ここに足を運んでも価値があるというものを作るべき。植物が育っている姿やバラ園のにおいなどはデジタル化できない。
- イベントに子供だけを参加させるのではなく、親子で一緒に参加できるものになれば会話が生まれるし、新たな気づきが生まれる。それがいずれ販売の創出にも繋がっていく。
- 県の施設はそれぞれ強みがあると思うので、そういったものと連携することは新たな創造、活用に広がっていく。
- ジブリの作品は植物の描写がもの凄くきれいである。例えば、そういったものとタイアップして、あの描写で描かれていた植物はなんなのかといった展示をすると子供たちも興味を湧くのではないか。
- 農業科学館で一番問題なのが物品を買えないところ。展示とあわせて物品を購入できればいい。民間資本の直売所があってもいい。
- 大阪市にある博物館では、販売しているグッズが充実している。グッズを目当てに次の来館にも繋がっているようである。
- 農業科学館は秋田の農業を紹介していくところをもっと打ち出してほしい。県の試験場で開発した品種は農業科学館の展示圃で展示するといった形になればいい。
- いただいた御提案等については、ネットワーク形成の取組の中で検討したい。
- 農業のデジタル化が進んでいる。GPSでトラクターが走るとかデジタルで見られるようにできればいい。
- ドローンは高校生でも扱える。ドローンを体験する機会もあっていいのではないかな。
- ②その他
特になし